



乳がん検診について



(公財) 鳥取県保健事業団

鳥取市富安二丁目9番4

Tel 0857-23-4841

4月号から7月号にかけて、色々な健診や健診現場をご紹介します。
第3弾の6月号は、乳がん検診についてです。



乳がん検診の種類

◆視触診

医師が、乳房にしこりがないかを診察します。視触診で発見できるがんは、ある程度の大きさに限られるため、単独では検診として効果が低く、マンモグラフィなどと併用することがお勧めです。

◆超音波検診（エコー）

乳房にゼリー状のものを塗り、超音波を当てて、画像を見る検査です。視触診では判別しづらいしこりを発見することができ、痛みもありません。ただ、小さな石灰化（※1）は発見しにくい欠点があります。若い女性は乳腺が多く、マンモグラフィ検診では乳腺が白く映り、石灰化と区別がしにくいいため、超音波検診の方が向いています。

（※1）石灰化：乳がんのことではありません。がん細胞の増殖過程で、石灰化が生じることがあるため、検診では石灰化を探します。

◆マンモグラフィ検診

乳房をX線で撮影する検査です。広範囲で検査ができ、小さな石灰化の段階で腫瘍が発見できます。立体的な乳房は、そのままだと腫瘍が隠れてしまうことがあるため、乳房全体をはさんで撮影します。そのため、痛みがありますが、痛みの感じ方は人によって違いますし、検診全体は10分程度かかりますが、圧迫している時間は数十秒です。また、レントゲン検査ですので被ばくの問題がありますが、被ばく量はごくわずかで自然界から受ける放射線量と比べても多くはありません。更に、当事業団では、X線撮影をデジタル化しており、以前より被ばく量は減っています。詳しくは下記をご覧ください。

***撮影にあたって、注意していただきたいことがありますので、裏面をご参照ください。**

X線撮影をデジタル化しました！



以前はフィルムを使ったアナログ方式で撮影していましたが、胸部X線、胃部X線、マンモグラフィーすべての撮影をデジタル化しました。

X線被ばく量がアナログ撮影の約半分に減る

- ・以前よりさらに安心して健診を受けていただくことができます。

病変をより見つけやすくなる

- ・画像がアナログ間接撮影の9倍の大きさで見やすく、さらに拡大したり、濃度を変えたりすることも自由に行えます。また、画像が美しく鮮明です。がん発見率が上がったというデータも出ています。

デジタルデータとして保存できる

- ・アナログ撮影では必要な方だけ以前のフィルムを探して比較をしていましたが、デジタル撮影では過去画像があれば自動的に表示されるため、より正確な判定が行えます。
- ・医療機関への画像提供が簡単に行えます。
- ・フィルムの現像が不要になり、廃液による環境汚染がなくなります。

撮影後すぐにモニター表示ができる

- ・その場で画像を確認できます（金属などの写りこみや画像のぶれがないか確認します）



乳がんの検診現場をご紹介します！



まずは、上の服をケープに着替えます。

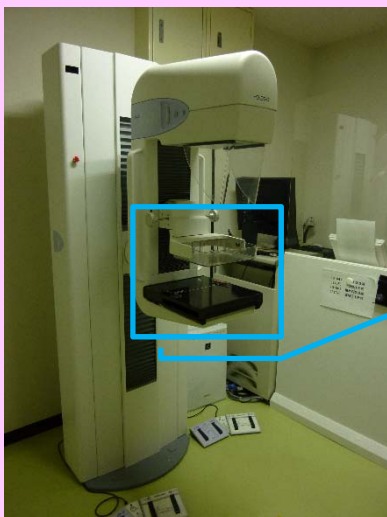
撮影を行う乳房側だけ、肩上のボタンで留め、ケープを上げて撮影です。

超音波検診



ベッドに横になってもらい、こちらを乳房に当て、画像で見っていきます。

マンモグラフィー検診



ここで、片方ずつ乳房をはさみ、撮影します。



検診車の中はこんな感じ



入口



更衣



撮影

マンモグラフィ撮影にあたってのお願い

次に該当する方は、原則お断りします

- ・妊娠中又はその疑いがある方
- ・植え込み型心臓ペースメーカー及び植え込み型除細動器装着の方
- ・豊胸術を受けられた方

次に該当する方は、必ず技師に申告してください

- ・乳房の外科的治療の既往のある方
- ・V-Pシャント（水頭症治療で用いる頭からお腹までの管）を挿入している方

次のような方は、読影不能となる場合もあります

- ・乳房の十分な圧迫が得られない方
- ・授乳中の方

また、撮影にあたって、制汗剤が障害になる場合がありますので、必ず拭き取ってください。



今や、乳がんの発症率は、日本女性の20人に1人！！

中高年層の女性に多いがんで、誰でもかかる可能性のある病気です。

自分は大丈夫と思わず、検診を受けましょう。